



ミュージシャン 綾小路翔さん

ヤンク・ロックバンド『氣志團』の團長として、刺激的な曲を歌い続ける綾小路翔さん。中学生の頃からカメラの魅力に惹かれて、今日まで膨大な数の写真を撮り続けてきたそう。常にツッパリ道を走り続けながら、ファインダーを通して何を見ているのか、お話をうかがいました。

プロフィール

あやのこうじ・しょう 1997年、千葉県木更津にてヤンク・ロックバンド『氣志團』を結成。「大胆かつ破廉恥に、Vのベルトはバレンチノ!!」を合い言葉に、團長兼ヴォーカルを務める。「2001年に『One Night Carnival』をリリースし、大ヒット。同年にメジャーデビュー、2002年にドラマ『木更津キャッツアイ』（TBS）に出演するとさらに人気に火がつく。『SECRET LOVE STORY』、『結婚調魂行進曲「ラブダチ」』、『夢見る頃を過ぎても』、『愛してナイト!』など数々のヒット曲を生み出し、個性的な曲調が目される。近年は音楽だけではなく、デザインやプロデュースなど、様々なシーンで活躍。

Beginning 出会い

中学時代からいつもカメラを鞆に入れて持ち歩いていた

カメラを持ちはじめたのはいつ頃ですか？

僕が小学校高学年の頃、世の中にレンズ付フィルムが始めました。これは面白いぞ、と思って、中学生くらいから常に持ち歩くようになりました。世間に出始めてすぐだったこともあって、まだ持っている人は少なかったですね。僕が持ち歩くようになってから流行ったんです。むしろカメラを持ち歩くというブームを作ったのは僕だと思っています（笑）。当時は1個1000円程と中学生が持ち歩くには高価でしたが、小遣いが貰えなかったのでアルバイトを4つほど掛け持ちして、カメラや服を買っていました。

バイトを4つ！ 勤労中学生だったんですね。どうしてカメラを持ちたいと思ったのでしょうか？

「いずれ自分は世に出るだろう」と勝手に思いこんでいたんですよ（笑）。だから、自分の周りの記録を残しておきたかったんです。

すごい理由ですね（笑）！ その頃はどんな写真を撮っていましたか？

ヤンキーが多い地域に住んでいたんで、面白い人が周りにいっぱいいました。だから毎日の出来事を写真に収めるだけで相当面白かったんですよ。それと、学生時代はアルバム製作委員もやっていました。

綾小路さんがアルバム製作委員とは、かなり意外です（笑）

僕の写真がメインになるようにしたかったんです（笑）。後々に僕が有名になったとき、同級生たちがアルバムを売ると考えたんですよ。そのときに高く売れるようにという考えもあって（笑）。昔から勝手に記録係をやる節がありました。ヤンキーって、中学・高校の6年間で人生の全てを燃やし尽くす生き物なんですよ。普通の人が60年かけて使うエネルギーを10倍に濃縮してしまう。短くてバツと輝いている日々を、記録しておかないといけませんよ！

レンズ付フィルム以降は、どんなカメラをお持ちになったのですか？

インスタントカメラに興味がありました。フィルムを送るときの音が「バシャバシャ！」って格好良かったので。ちょうど知人から頂く機会があって、持ち歩くようになりました。ただ、こちらはフィルムが高価で、気軽に撮影できなかったんです。その頃になるとレンズ付フィルムがだいぶ安くなっていましたので、普段はレンズ付フィルムを使って、ここぞというときにはインスタントカメラを使うようにしていました。

インスタントカメラで撮る“ここぞ”はどんなときだったのでしょうか？

当時、勝手に自分達でミニコミ誌を作っていて、それに載せる写真をレンズ付フィルムで撮っていたのですが、誰ともなく「見栄えしないな」というようになりまして。そこで、みんなで親のカメラだとか、良いカメラを持ち寄ろうとなったんです。その時僕もインスタントカメラを持って行って、掲載する写真を撮っていました。今思い出すと、既成雑誌のバクリばかりで、もの凄く恥ずかしいミニコミ誌だったんですが、とにかく「自分達発信」のものをつくりたかったんです。記事になることを常に探していたから、いつもカメラを持ち歩いて、撮って、記事にしていました。

Pleasure 楽しみ

一眼レフカメラは、今までのカメラと違う、興行きや色味が表現できる

レンズ付フィルムやインスタントカメラを使っていた時代が長かったのでしょうか。

東京に出てきても、しばらくはレンズ付フィルムを使っていたのですが、その写真をインディーズ・アルバムのフライヤーに使うことにしたんです。ところがデザイナーに「この写真を使ったら、すごく安っぽいものに仕上がってしまうよ」といわれてしまったんです。そのときにはじめて、写真の解像度だとかそういうことを思い知りました。結局、知り合いのカメラマンに頼んだのですが、ジャケットにそのまま使えるようにと、できあがりの写真が正方形に仕上がるレンズで。そういうレンズの種類があることすら知りませんでしたので、衝撃続きでしたね。

ご自身でデジタルカメラを持つようになったのはいつ頃ですか？

デビューした頃に頂いたデジタルカメラを少しの間使っていました。どうやって現像するの、というレベルで悪戦苦闘していました。その後色々デジタルカメラは買っていたのですが、次々と新製品が出ますよね。僕は機械に詳しくないんですが、「新しいもの」が好きなので、いたちごっこをしていました。しかも落として壊すことが多くて。旅先に向かう空港で落として壊したこともあります（笑）。

旅行中にカメラが壊れてしまうのは困りますね.....。

あまりに壊すので、丈夫で水中でも撮れるカメラを手に入れたんですが、見た目がごつくてみんなに怖がられる（笑）。ギャル受けも悪かったですねえ（笑）。

綾小路さんは一眼レフカメラもお使いになるとのことですが、一眼レフとの出会いは？

はじめの一眼レフカメラはNikonのD40だったのですが、とにかく難しいというイメージがありました。昔一眼レフのフィルムカメラを借りたことがあったんですが、そのときはピンぼけばかりだったので、そのときの印象が強かったんですね。でも見た目が格好いいから使ってみたくなんです。僕は見た目から入るタイプなので、わからないなりにとりあえず持ち歩いては見よう見まねで景色とか撮影していました。重いので日常的に鞆に入れておくというよりは、旅行に持っていきようにはしていたんですが、一眼レフカメラを使い始めると今までの写真との違いにビックリさせられました。奥行きや色味が全然違うから、カメラが一層楽しくなるんですよ。

一眼レフではどんな写真を撮られますか？

景色や動物、何でも撮りたくなってしまいます。

できた写真を見て、言葉が浮かんできたり.....、カメラは人を詩人にさせますね！人を撮ろうとすると、一眼レフカメラのときの方がみんなノリノリで撮らせてくれる。被写体をモデルに変えるのも、一眼レフカメラだと思います。



Photo's 作品紹介









Future これから

「今日という日は二度とこない」から、日々は大切に切りとっておく

いい写真を撮るときのコツを教えてください。

僕は手先が不器用で、専門知識もない。だからテクニックがない分、気持ちで撮っています。被写体に「いいねー！その顔！」とか言ったり。気持ちが入ると、そのときの情景を覚えるでしょう。自分も楽しんで撮ってる写真は、例えばブレていても気持ちが残るから、「いい写真」ですね。

写真に対する思いがとても強いと感じます。撮った写真は、どのように楽しまれているのでしょうか？

子どもの頃から「今日という日は二度と来ない」と考えていました。だから色々なものを残しておきたいのだと思います。今の子どもって羨ましい。写真だ動画だって簡単に残すことができるでしょう。僕はアナログ人間なもので、写真を現像してアルバム製本をします。でもやっぱりデータだけでなくモノにしてあげると喜んでもらえてうれしいですし、また写真撮るぞって気持ちになります。

これから使ってみたいカメラはありますか？

カメラというか、最近は色々なレンズを試してみたいという欲が出てきました。知り合いがやっている店のポスターに使う写真の撮影を頼まれたのですが、現像してみると、ポスターにするには画質が悪かったし、ポスターっぽくならなくて、悔しい思いをしました。巨大なポスターにしても満場一致でイイ！って思えるような写真が撮れるようになりたいですね。

どういったレンズに目を付けていらっしゃるのでしょうか？また、理想のカメラは？

カメラの知識が乏しいので、コレ！というのはまだありません。ピンときたものから試してみるんだろうなと思います。僕はネットの情報とかで、お勧めを見てもいまいちよく分からない。自分で経験してみないと。理想のカメラは、一緒に旅できるタフなヤツ。Nikonのカメラはちょっとやそっとのことでは壊れないので、良い相棒ですよ。

カメラはこれからもずっと楽しまれていきますか？

子どもの頃からずっと、カメラを構えるのは習慣になっていますから、撮り続けていきますよ。色んな楽しみ方をしていきたいですね！

これからも、綾小路さんの独特の感性でシャッターを切られるのが楽しみです！ありがとうございました。



※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社 **ニコン** 映像事業部

株式会社 **ニコン** イメージング ジャパン

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.